

Day

2

タイトル

1. マプト市の廃棄物管理評価のための関係者分析及び問題分析の結果

発表者

JICA廃棄物管理アドバイザー 吉田充夫

要約

最初に、発表者は、ACCP設立準備会合(2017年4月、マプト)で実施したアンケート調査とワークショップを通じて収集したデータに基づいて、アフリカの地方自治体の廃棄物管理の現状と課題について説明した。アフリカの都市では、人口増加と都市化により都市廃棄物が急増しており、都市化は経済成長とは無関係に生じている。また、アフリカのいくつかの都市/国では、平均所得に比して廃棄物の発生率が高いことを指摘した。これらの傾向から、廃棄物発生量の増加は今後加速し、10-15年後には地方自治体の廃棄物発生量は現在の2倍になると推定され、世界で最も深刻な状況になる可能性があることを指摘した。

次に、アフリカ諸国で利用可能な廃棄物処理サービスは、収集、中間処理、処分の全てにおいて初期段階であるとし、廃棄物管理能力の向上が急務であると述べた。アフリカ13カ国を対象とした調査データを、4つの指標(①制度的能力、②組織能力、③財務能力、④廃棄物管理データ収集能力)を用いて分析したところ、多くの指標は、経済成長(一人当たりGNI)や人間開発指標と相関がみられるが、①制度的能力は相関がみられなかった。これは、経済成長や人間開発指標の改善が、廃棄物管理の法的・制度的向上には繋がらない可能性を示唆しており、制度構築に特化した努力が必要であるとした。また、持続的な廃棄物管理には、制度的裏付けに基づく明確な責任分掌が重要であることを強調した。

廃棄物管理の政治的優先順位を上げるためには何をすればよいかという質問に対して、発表者は、政策立案者への組織内部での働きかけと市民意識の向上という2つのチャネルしかなく、継続的な意識啓発と世論の圧力が政策の優先順位に影響を与えると述べた。